

【報告要旨】国際契約法制部会第1報告

脱炭素案件の社会実装と国際プロジェクトファイナンスの課題 ～ブレンデッド・ファイナンスの現状と課題に関する一考察～

堀口宗尚

脱炭素分野におけるエネルギーやインフラプロジェクトの社会実装＝商業化は、SDGs 目標の達成に大きく貢献する。他方、脱炭素分野の案件の多くはその用いられる技術が技術開発・実験実証段階であり、商業化には相当の時間を要すると見込まれており、金融機関にとってその技術リスクをテイクしてファイナンスを行うことは容易ではない。更に技術リスクに加え、需要リスクや政策変更リスク等についても金融機関側から精査され、リスクテイク可能と判断されることが必要になる。

日本企業が事業スポンサーとして参画する国際的なエネルギーやインフラプロジェクトにおいてはその資金調達手法として国際プロジェクトファイナンス（PF）が多く活用されてきていたが、脱炭素分野の案件についても事業リターンの確保・向上のために PF のさらなる活用は不可欠と認識されている。そのためには、個別の脱炭素プロジェクトにおいてリスク低減が図られ、プロジェクト当事者間において当該リスク負担の合意がなされることが必要となる。

とりわけ新興国のインフラやエネルギー・プロジェクトにおける高いプロジェクト・リスクと低いリターンの克服は企業にとっての課題となる中、プロジェクトのリスクを低減し、民間資金を動員してプロジェクトに必要な総資金を確保し、プロジェクトを実現する金融手法であるブレンデッド・ファイナンス（BF）の活用は有効であると考えられ、近年大きな注目を集めている。

本報告では、BF を活用して社会実装に至った国際 PF 案件の具体例を紹介しつつ、BF の有用性につき検討する。更に、BF 案件形成の現状・課題として、公的機関・主体の役割が大きく民間企業や新興国政府の関与が少ないこと、プロジェクト情報の開示が不十分であること等を挙げる。そして今後の更なる BF 案件推進のためには、開発政策、気候変動、インパクト投資等の関連政策の深化、譲許的資金に係る国際開発金融機関等の増資、民間ベースにおける BF 案件情報の蓄積・発信のためのプラットフォームの整備の重要性等について言及する。